

防災教育
チャレンジプラン



めざせ 地域の防災リーダー ～学校と地域の架け橋 防災新聞作り～




<問題>
お風呂、トイレ、洗面所、脱衣所、災害時、意外と役に立つラップフィルム！
さて、次の使い方で間違っているものは？

- ① お風呂にかぶせる
- ② けがの手当
- ③ くつの代わり

<コンポイントしようほう>
ラップフィルムは必ず開封後、出し袋の中にぜひ入れてください。お風呂にかぶせて使えばお風呂を拭く必要がなくなるし、傷口に刀を当てたところから使えば傷の代わりにもなります。しかし、雑菌ながら、くつの代わりにはなりません。

2005年度防災教育チャレンジ団体

千葉県我孫子市立湖北小学校 第6学年

1. プランタイトル

『めざせ 地域の防災リーダー！！
～学校と地域の架け橋「防災新聞」づくり～』

2. 対象及び人数

我孫子市立湖北小学校 6年生 92名

3. 主な活動期間

平成17年4月から平成18年3月

4. 目的及び期待される成果等

自分たちの学習してきた防災の知識を、広く地域の方々に広めていくために「防災新聞」作りに取り組む。継続的に防災情報を伝えていくことで、町の中の防災リーダーとして活躍していくことを目指す。

小学生から地域へと情報発信をすることで、地域全体の防災意識を高め、災害に強いまちづくりに貢献したい。

5. プランの概要

- * 月一回程度の防災新聞発行。
- * 実際の地震災害の様子について、および防災に関する今後の課題等について専門家の話を聞き、今後の防災学習に生かす。
- * 防災ゲームの作成および実践。
- * 防災ゲームを利用した職員研修を行い、教師自身も災害時における実践力を身につける。
- * **地域の防災マップを作成し、地域へ配布し情報提供をする。(追加)**

6. 活動内容

前半(中間報告会までの活動)

月	活動内容	教師の支援	備考
4月	防災ゲーム 「わが家の大作戦」 ・神戸新聞 2005.1.1号掲載の「防災すごろく」を体験。 防災新聞作成 ・昨年度学習した内容をもとに、防災新聞第1号を作成。	「防災すごろく」を体験し、昨年度学習した防災学習を振り返り、今年度の防災学習への意欲付けへとつなげる。 新聞作りのイメージをつかませる。	・防災すごろく ・コマ ・さいころ
5月	防災新聞第1号発行 ・完成した新聞を全校児童(460名)を通じて家庭に配布。(460部) ・地域の自治会等の回覧板を通じて回覧してもらえようお願いに伺う。(10団体分、300部) ・公民館に置かせてもらい、自由に持って行ってもらう。(50部) ・児童の祖母の店に置かせてもらう。(20部) ・本校職員に配布(25部) 防災新聞第2号・3号作成	事前に自治会の方に、文書にて趣旨を説明し、協力を要請する。 昨年度の防災パンフレット同様、公民館に置かせてもらえよう、児童とともにお願いに行く。 新聞は、ただ配るだけでは読んでももらえないので、読んでもらうための工夫を考えさせる。 ・どんな情報が必要か?	・防災新聞第1号 855部 発行

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちが、興味を持ってくれるような工夫をして、新聞を作る。 ・資料集め 本、インターネット等 *紙面の都合上、クラスを2チームに分け、2号・3号を並行して作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな形の記事が目を引くか？ ・遊びの要素も取り入れて クイズ形式 KYT(危険予知トレーニング) 	
6月	<p>防災新聞第2号・3号発行(隔週で発行)</p> <p>(財)市民防災研究所の方から、市民防災研究所の活動について、お話を聞く。</p> <p>(財)市民防災研究所の方から教えていただいた、簡易コンロを作成し、実際に調理してみる。</p> <p>防災新聞第4号作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民防災研究所の方から学んだことを新聞にまとめ、紹介する。 ・実際に簡易コンロを作成したときの様子を報告する。 	<p>市民防災研究所の設立の背景から、関東大震災の被害の大きさに気づかせる。</p> <p>市民防災力の必要性を、改めて実感するとともに、自分たちの活動の社会的意義にも気づかせ、今後の学習の意欲へとつなげる。</p> <p>学んだことを、知識のみで終わらせず、実際に体験した上で、地域の方へ伝えていくよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災新聞第2号・3号各855部発行 簡易コンロ材料他 ・350mlアルミ缶3本 ・アルミホイル ・ティッシュ ・サラダ油 ・はさみ ・爪楊枝 ・定規
7月	防災新聞第4号発行	活動の様子の写真も取り入れ、視覚的にも刺激のある新聞になるよう支援する。	・防災新聞第4号855部発行
8月	<p>職員研修</p> <p>防災ゲーム「クロスロード」実習</p> <p>講師：慶應義塾大学商学部 吉川肇子助教授</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「クロスロード」の実習を通して、災害時の対応をシミュレーションする。 	<p>「クロスロード」の実習を通して、防災に対する職員の意識を高める。</p> <p>防災教育の在り方について、考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「クロスロード」市民編
9月	<p>防災ゲーム「クロスロード」(児童)</p> <p>防災新聞第5号作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロスロードで体験したジレンマを新聞にて伝え、読者にも「自分だったらどうするか？」と考えてもらう ・夏休み中に発生した地震について地域の防災マップ作成に向けて、計画を立てる。 	<p>「クロスロード」はグループごとではなく、学級全体にて行い、話し合いが深まるよう支援する。</p> <p>クロスロードの世界を4コマや、チャートで表し、災害時の状況を具体的にイメージできるように表現させる。</p> <p>災害に強いまちづくりのために、地域をよく知るためのマップ作りをイメージさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「クロスロード」ワークシート ・x札

後半（中間報告会以降）

月	活動内容	教師の支援	備考
10月	<p>防災新聞第5号発行 防災新聞第6号作成</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果をもとに、読者の知りたい情報を提供する 阪神・淡路大震災で役に立ったもの 阪神・淡路大震災の時ペットはどうなったのか。 1年生への防災指導計画について（自作人形劇とぼうさいDUGの紹介） 防災ゲーム「ぼうさい駅伝」の試行 地域防災マップ作成のため、まち探検を行う。 	<p>新聞第6号作成に当たり保護者へのアンケート結果をもとに、どのような記事を発表していくか話し合わせる。</p> <p>人形劇作成では、低学年にとって必要な防災とは何かを考えさせる。（欲張らず、これだけは！というものに絞る）</p> <p>実際に「ぼうさい駅伝」を行い、良い点は何か、改善点は何かを話し合わせる。</p> <p>自分たちの作るマップのテーマに沿って、何を調べてくるのか、何をインタビューしてくるのかははっきりと目的を持った上で探検できるよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災新聞第5号 855部発行 「ぼうさいDUG」 「ぼうさい駅伝」 学区マップ カメラ アンケート用紙
11月	<p>防災新聞第6号発行 防災新聞第7号作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生への防災指導活動報告 非常食の準備（一人あたりどのくらい準備すればいいの？） 防災マップ作成報告 「ぼうさい甲子園」、千葉県「自主防災組織活動支援シンポジウム」参加についてのお知らせ 「ぼうさい駅伝」クイズ作り 地域防災マップ作成 1年生への防災指導（朝自習の時間） 自作人形劇で、家族と別々に被災してしまったときに備えて、避難所について話し合っておくことを提案。 防災ゲーム「ぼうさいDUG」を活用し、自分の身は自分で守ることを提案。 	<p>地域の方が知りたがっている「非常食の種類・値段」について実際に1日の食事計画を立て、地域のお店ではいくらくらいで準備できるのか具体的な提案ができるよう支援する。</p> <p>「ぼうさい駅伝」のクイズで自分たちは何を伝えていきたいのかをはっきりとさせた上で、クイズ作りに取り組みさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生でも解ける問題 今まで学習してきたものを伝える 災害時に実際に役に立つ情報 模造紙1枚にわかりやすくマップを作成するための工夫（写真の活用、グラフの活用、文字の配置等）を意識して作成できるよう支援する。 1年生にわかりやすい表現の台本作りを支援する。 「ぼうさいDUG」の楽しみ方を工夫させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災新聞6号 855部発行 クイズ作成カード 模造紙 マジック 写真 のり 色画用紙 人形 背景 「ぼうさいDUG」
12月	<p>防災新聞第7号発行 2年生への防災指導</p>	<p>1年生での防災指導の反省を生かして2年生での指導をするよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 声の大きさ 速さ 「ぼうさいDUG」の活用の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 防災新聞第7号 855部発行 人形 背景 「ぼうさいDUG」

1月	<p>自分たちの作成したクイズカードも交えた「ぼうさい駅伝 湖北小バージョン」を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回試行した「ぼうさい駅伝」と比べてどうか？ ・自分たちのクイズカードはわかりやすかったか？ ・5年生へ活用するときに、工夫する点は何か？ <p>5年生への「ぼうさい駅伝」活用の計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズカードの選別 ・クイズカードの補足 ・すごろくボードの作成 防災新聞第8号作成 ・「ぼうさい甲子園」報告 ・地震保険の仕組みについて ・「ぼうさい駅伝」紹介 「ぼうさい駅伝」クイズ 防災マップハンドブック作成計画 ・2学期に作成した模造紙の防災マップを地域に配布できるようハンドブックにする計画を立てる。 <p>1月29日(日)千葉県「自主防災組織活動支援シンポジウム」にて、2年間の防災学習実践について報告をする。</p>	<p>「ぼうさい駅伝 湖北小バージョン」を5年生に活用する方法を意識して、ゲームを楽しむよう支援する。</p> <p>改善点等を整理して、5年生への防災指導計画を立てさせる。</p> <p>5年生が楽しみながら学べるような工夫を支援する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生でもわかる問題は？ ・5年生に知ってもらいたい問題は？ ・5年生が楽しめるようなルールの工夫 <p>地域の方に役立ててもらえるハンドマップとはどんなものかを考えて計画を立てるよう支援する。</p> <p>災害に強いまちづくりを目指して自分たちが活動してきた内容、自分たちの思いを伝えられるよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼうさい駅伝 湖北小バージョン」 ・クイズカード用紙 ・すごろくボード台紙 ・防災マップ ・2年間の活動の成果物
2月	<p>防災新聞第8号発行 防災新聞第9号作成 5年生で「ぼうさい駅伝」実施 防災マップハンドブック作成</p>	<p>「ぼうさい駅伝」を通して、5年生に「防災とは何か」「自分たちにできることは何か」「自分たちがやらなくてはいけないことは何か」を考えてもらえるよう支援する。</p> <p>わかりやすく、楽しく、役に立つ「ハンドブック」作りを支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災新聞第8号 855部発行 ・「ぼうさい駅伝 湖北小バージョン」
3月	<p>防災新聞第9号発行 防災新聞第10号作成・発行 ・2年間の防災学習のまとめ ・地域へのメッセージ 防災マップハンドブック完成・配布</p>	<p>2年間の防災学習のまとめとして、地域へ「災害に強いまちづくり」に対するメッセージを送って卒業するよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災新聞第9号 ・10号 855部発行 ・防災マップハンドブック

7. 活動の様子

< 4月 >

防災ゲーム「わが家の大作戦」(神戸新聞 平成17年1月1日号掲載)

目的

- ・防災すごろくに取り組み、楽しみながら昨年度学習した防災についての知識を思い出す。
- ・ゲームをしながら、防災を学習する良さを学び取る。

成果

児童たちは、「時の魔人」に追いつかれないように一つずつ防災対策をしていくゲームに夢中になりながら、昨年学習したことを思い出していた。さらに、知らなかった情報を目にし、まだまだ知らないこともあるのだなと気づき、さらなる学習意欲へとつながった。



また、知識としてはわかっているけれども、「わが家」では実践していない防災対策もいろいろとあるようで、新聞を家に持ち帰り家族で楽しみながら学習したいという児童も何人かいた。

昨年度の防災学習では、導入時、まとめと合わせて5つの防災ゲームを活用したり、災害について様々な方からお話を聞いたり、体験学習をしたり、自分たちで役に立つ防災パンフレット作りをしたりと、多種多様な学習形態をとってきた。そのため、児童の興味関心は総授業時数50時間という長きにわたり、途絶えることなく高まっていった。

今年度も、楽しく学べる防災ゲームを導入に用いたことで、「今年の防災学習はどんな学習になっていくのかな？」という期待も大きくふくらんだ。

一方で、子どもたちの防災に対する意識の高さから、この防災ゲームに対するシビアな意見も出てきた。「楽しく防災を学ぶことができるけれど、ゲームに夢中になりすぎると、あまり学んだことが頭に入らない。」「すごろくが短すぎて物足りない。」など。そこから、「もっとこんな風にしたら?」「いやいや、こうした方がおもしろいよ。」などと自然と会話が生まれ、今年度予定している、児童による防災ゲーム作りにもつながっていき、学習導入としては有意義な時間を持つことができた。

『防災を楽しく学べるゲームは、防災学習には効果的だ!ただし、楽しいだけでは、防災学習には結びつかない!楽しく学べる防災ゲームを自分たちでも作ってみたい!』そんな意欲が芽生えた学習であった。

また、これから取り組んでいく「防災新聞作り」においても、記事を読んでもらうためには、『楽しく、わかりやすく、ためになる情報』を伝えていくことが大事だということにも気づき、新聞作りへの意欲も高まっていった。

< 5月 >

防災新聞第1号発行 平成17年5月12日

< 記事の内容 >

- ・防災教育チャレンジプランへの取り組みの紹介
- ・地震発生時の初期行動
- ・地震はどうして起こるの?
- ・西部防災センターの紹介
- ・地震の前兆?
- ・ワンポイント救急法
- ・4コママンガ

新聞発行部数

全校児童460部、地域自治会300部、公民館50部、校内職員25部、その他20部
計855部発行



湖北地区公民館へ新聞配布の依頼

< 6月 >

防災新聞第2号発行 平成17年6月17日

- ・ 阪神・淡路大震災の様子
- ・ 非常持ち出し袋
- ・ KYT「家の中の危険」
- ・ クイズ
- ・ 地震の前兆？
- ・ 応急手当
- ・ クロスワードパズル
- ・ 4コママンガ

**防災新聞第3号発行** 平成17年6月30日

- ・ 新潟県中越地震について
- ・ 非常用備蓄品
- ・ KYT「スーパーで地震にあったら？」
- ・ クロスワードパズル
- ・ クイズ
- ・ 地震の前兆？



(財)市民防災研究所の方の話を聞こう！
「市民防災研究所ってどんなところ？」

実施日時：平成17年6月14日

目的：

- ・ 市民防災研究所の設立の背景から、関東大震災の被害の大きさに気づく。
- ・ 市民防災研究所の活動内容から、市民防災力の重要性を知る。
- ・ 自分たちの活動の社会的意義に気づく。
- ・ 身近にあるものを利用した防災グッズの作成。

成果

- ・ (財)市民防災研究所の創設者 旗野次郎さんの市民防災にかけた熱い思いを知り、市民防災の大切さについて改めて学び、また、自分たちの活動の意義を実感することができた。
- ・ 関東大震災の火災による被害の大きさを知るとともに、猛火から自分たちの町をバケツリレーで救った市民の力から、自助・共助の大切さを学んだ。
- ・ 身近にある、サラダ油、アルミホイル、ティッシュ、コップを利用した明かり作りを体験し、災害時に役立つ技術を身につけた。

市民防災研究所の方に教わった簡単コンロ作りに挑戦！



身近にあるものを使って簡単にできるコンロ

- < 材料 > サラダ油、アルミホイル、ティッシュ、350mlのアルミ缶3本
- < 道具 > はさみ、定規、爪楊枝

* 火力もしっかりとあり、子どもたちは、ハムステーキ、チキンラーメン、餅、卵スープ、目玉焼きなどを調理し、試食した。思ったよりも簡単にコンロが作れ、そして、きちんと調理をすることができ、子どもたちは皆、感激していた。この体験は、防災新聞第4号にて報告。

< 7月 >

防災新聞第4号発行 平成17年7月20日

- ・ 市民防災研究所について
- ・ 関東大震災について
- ・ 身近にあるものを使って簡単にできる明かり作り
- ・ 卓上コンロの作り方
- ・ 卓上コンロを使った料理の紹介

< 8月 >

職員研修 防災ゲーム「クロスロード」実習

実施日 平成17年8月25日

講師：慶應義塾大学商学部助教授 吉川肇子先生

目的：

- ・ 「クロスロード」を体験することで「防災ゲーム」について知る
- ・ 「防災ゲーム」を通して、現在の防災の在り方について学ぶ
- ・ 防災学習や、その他の教育場面で「ゲーミング」を取り入れることの教育的効果について学ぶ

「クロスロード」から学べること

- ・ 災害時の決断の際、常識ではわかっているけれども心情的には多数決では決められないものもある。実際には多数派が良いとは限らないのではないかと、いざというときに、ややこしいのが人間である。人間は、いろいろな考えがあつてたいへんということ、話し合いの中で実感することができる。
- ・ YES、NOの判断基準は、状況によって変わってくる。その判断基準は何がきっかけとなり変わるのか？といったことが話し合いの中で見えてくる。また、その人が置かれている状況（社会的立場、家庭環境等）によって、判断が変わってくる。ゲームの話し合いの中で、仲間の置かれている状況を知ることでもでき、災害時の相互理解にもつながる。
- ・ クロスロードの目的は、災害に対する想像力を引き出すことである。防災は「こうすべき」という押しつけが多く、災害の経験のない人にはかけ離れた世界の話になりがちである。未経験の人に災害時を想像した上で、防災について考えてもらうための手段である。防災には「考えなくてもできなければいけないもの」と「考えなければできないもの」があり、後者については、いざというときには考えている余裕はないため、時間のあるときに考えておくべきである。そのきっかけ作りとして活用することができる。



< 9月 >

「クロスロード」児童実習

- * 2学期の学習の導入として「クロスロード」を実施
- * 話し合いを充実させるために、グループごとではなく学級全体にて行った。



児童の感想

- ・ YESにするかNOにするか迷った。みんなの意見を聞くと「なるほどなあ〜」とよけい迷ってしまった。
- ・ 楽しいゲームだと思う。自分たちの意見を言い合うところが、おもしろい。あと、その時にどうすればいいのか想像できる。
- ・ 本当に地震が起きたときの判断力がつくかもしれないからこのゲームは良かった。
- ・ 楽しかった。逆の立場の人たちの意見がよくわかった。

「ゲーム」という状況設定が、子どもたちの好奇心を高め、賛成派と反対派で活発な意見が交わされ、話し合いがたいへん盛り上がった。当初、6問の問題を授業1時間(45分)で行う予定であったが、ゲームのみで60分間を費やした。小学生にとっては、非常に長い時間であるが子どもたちの意欲は持続し、さらに違う問題もやりたいと言い出すほどであった。

話し合いの内容はたいへん充実しており、子どもたちなりにそれぞれの立場に立ち、災害時の状況を想像しながら相手側を説得しようとして力説していた。「避難所に飼い犬を連れて行くか?」という問題に関しては、犬を飼っているかいないか、また、飼い犬に対する思いの強さなどから意見が対立し、話し合いに長い時間を費やしていた。

「常識的に考えれば犬は連れて行ってはいけないかもしれないが、生きている犬を絶対に見捨てることはできない。」でも、「避難所には多くの人が集まるのだから、アレルギーの人や犬嫌いの人もいて絶対に迷惑だ。」では、「災害時、犬や猫やその他のペットはどうしたらいいのだろう?」そんなところにまで話し合いは広がり、「クロスロード」でねらっている、「様々な立場、いろいろな考えを知る」「考えなければできないもの」の存在に気づき「事前に十分に考えておかなければいけない」ということを、ゲームの中から児童が自ら学び取ることができた。

「クロスロード」から学んだ、「考えておかなければできない防災」を4コマやチャートにして市民にわかりやすく伝えようと、「防災新聞第5号」に取り組む。

< 10月 >

防災新聞第5号発行 平成17年10月4日

- ・ もしも大地震が起きたらあなたは?
キャンプ場編
海で地震が起きたときに気をつけないといけないこと
奥尻島 津波の被害
エレベーターに乗っているとき大きな揺れを感じたら
会社にいるとき大地震にあったら
お店の中で地震が起きたら
- ・ オフィスでのKYT(危険予知トレーニング)
- ・ クロスロード 災害時の分かれ道
チャート式
4コママンガ
- ・ ワンポイント救急法「骨折の応急手当」
- ・ 防災マップ作成広報

防災新聞アンケート実施

対象：湖北小学校保護者

回答率 338 世帯中 196 世帯（58%）

- ・ 回答してくれた方たちは、多くが毎号読んでおり、かつ発行を楽しみにしてくれているようである。
- ・ 防災新聞を定期的に発行することで、継続的に防災に関心を持ってもらうという目的は、十分に達成されている。
- ・ 非常持ち出し袋や非常食の準備の必要性を伝えてきたが、実際に準備をされている方が非常に少ないことがわかった。しかしながら、準備をしていない家庭でも今後準備をしようと思っていると回答している家庭が多いことから、非常持ち出し袋や非常食の必要性を今後の記事でさらに強く訴えていくことで、準備率を上げていきたい。
- ・ 「自助」「共助」の必要性を理解してもらい、地域全体で防災に強いまちづくりをしていくことを目指しているが、まだ、「公助」のみで何とかなるだろう、または、何とかするべきだという意識の方もおり、災害時の状況をさらに、正しく伝えていかなければならないと感じている。

< 中間報告以降の活動 >

< 10 月 >

防災ゲーム「ぼうさい駅伝」の試行

防災ゲーム研究会試作の「ぼうさい駅伝」を行い、気がついたこと、自分たちがクイズ作りをする際に気をつけることなどを話し合い、今後のゲーム作りの計画を立てる。

児童の感想

- ・ 二人一組でたすきリレーをしながらクイズに答えていくのが楽しかった。
- ・ クイズが難しすぎた。
- ・ クイズに正解しないとたすきを交代できないので、なかなか順番が回ってこなかった。
- ・ 楽しみながら防災のことがわかるのでためになった。etc .



これらの感想を生かして、自分たちが作るクイズカードでは・・・

- ・ 「小学生でもわかる問題」
- ・ 「災害時に役に立つ問題」
- ・ 「自分たちが学習してきたことを伝える問題」

を目指していくこととした。

さらに、ゲームのルールについてわかりづらかった部分や、工夫点などのアイデアを防災ゲーム研究会へ戻し、ゲーム作りの参考にいただいた。

「防災マップ作り」まち探検実施

目的：

- ・ 地域の方々に、役立つ情報を提供するために、地域防災マップを作成。
- ・ 防災マップを作成することで、自分たちの住む町について改めて見直す。
- ・ 地域の設備の発見、住んでいる方々との交流を通して、防災上の地域の利点や課題点を発見する。

実施：

2時間目～4時間目までを使い、保護者の方の協力の下まち探検へ。

事前にマップのテーマを決め、探検。地域の方へのアンケート用紙も用意し情報収集。



< 11月 >

低学年への防災指導（朝自習の時間を利用して各クラスを順番に訪問）

保護者からのアンケート結果を受けて、低学年へ防災の知識を伝えたいと子どもたちから提案。

自作人形劇と防災ゲーム「ぼうさい DUG」の活用

目的：

- ・低学年に「自分の命を守る方法」を楽しみながら知ってもらおう
- ・人形劇をきっかけに、家庭で防災について話題にしてもらい、防災対策を考えてもらう

人形劇内容：

放課後、児童のみで遊んでいると、突然大きな地震が発生！

幸い子どもたちにけがはなかったのだけれど、建物は崩れ、

まちはめちゃくちゃに。お母さん達は買い物に行っていて、家には誰もいない。

「僕たちはいったいどうしたらいいのだろうか？」と途方に暮れている子どもたちに、

近所のおばさんが声をかけてくれる。とにかく安全な避難所へ移動して、お母さん

達をまとうということに……。しかし、まちは避難所がたくさんある。いったい

どこの避難所に行けばよいのだろうか？その時、一人の子どもがお母さんに「地震

の時には湖北小に避難しなさい」と言われていたことを思い出し、みんなは湖北小

へ。その後、子どもたちは無事に家族と会うことができる。

「大きな地震が起きたとき、家族が離ればなれにならないように、避難場所について話し合っておいてください」と低学年へ呼びかける。



防災ゲーム「ぼうさい DUG」（損保協会制作・販売）

- ・地震、雷、火事、大雨、誘拐、交差点、などの様々な危険から身を守る方法を動物のポーズで覚える。

例：地震・・・ダックのポーズで頭を守る

雷・・・カメのポーズで身を低くするなど

また、悪いことをしてしまったときにはサルのポーズで

「ごめんなさい」。近所の人にあったら、イヌのポーズ

で「こんにちは！」など、道徳的なカードも。「自助」

の基本と「共助」へ結びつく人間関係などが、楽しみながら自然と身に付くゲーム。



低学年の反応

- ・6年生が教えに来てくれると言うことで、大変楽しみにしていたくれた。

人形劇を見ているときの子どもたちの表情は真剣で、教師の話

を聞くよりも集中していた。

- ・「ぼうさい DUG」では、音楽に合わせてポーズをとるなどの工夫があったため楽しみながら夢中になって取り組んでいた。その後、学級にて各担任がふりかえりをした際には、実によくポーズを覚えており、なぜそのポーズをしなくてはいけないのかも理解していたとのことである。



雷！ カメのポーズ！

子どもから、子どもへ「防災」を伝えていくことは大変効果的であり、教える6年生にとっても、教わる低学年にとっても、通常の避難訓練以上に効果があった。

防災新聞第6号発行

- ・阪神淡路大震災で役に立ったものベスト10
- ・阪神淡路大震災の時、ペットはどうなったの？
- ・1年生への防災指導計画について
人形劇・ぼうさいDUGの紹介
- ・防災クイズ

「ぼうさい駅伝」クイズ作り

- ・「小学生でもわかる問題」
- ・「災害時に役に立つ問題」
- ・「自分たちが学習してきたことを伝える問題」

をポイントに、自分たちが伝えたいメッセージを問題にする。

一人3問ずつ考え、友達と重ならないように問題調整。

自分の問題が決まったら、3択クイズを完成させ、このクイズで伝えたいメッセージを「ワンポイントじょうほう」として加える。(防災ゲーム研究会の試作クイズには無かったもの。子どもたちのアイデアで追加！)

・このクイズは、問題をお互いに出し合って答えるものなので、耳で聞いて問題の内容が理解できるか、お互いに問題を出し合い最終確認。



防災マップ作成

まち探検で調べてきたものを、わかりやすくマップにまとめよう。

<各グループのテーマ>

- ・避難場所について
- ・災害時に水が確保できる場所について
- ・非常食や水を分けてくれるお店について
- ・まちの中の安全な箇所・危険な箇所
- ・病院などの場所の確認
- ・非常食のある場所と地震対策



< 12月 >

防災新聞第7号発行

- ・1年生への防災指導活動報告
- ・非常食の準備(一人あたりどのくらい準備すればいいの?)
- ・防災マップ作成報告
- ・「ぼうさい甲子園」「千葉県自主防災組織活動支援シンポジウム」参加についてのお知らせ

2年生への防災指導 (1年生と同じ内容)

< 1月 >

「ぼうさい駅伝 湖北小バージョン」の完成

自分たちの作成したクイズカードも交えた「ぼうさい駅伝」を行い、5年生へ活用する際の工夫点などを考える。

<工夫点>

- ・防災ゲーム研究会作成のクイズが難しいので、5年生でもわかりそうな問題を事前に選んでおく。
- ・自分たちの作成したカードの出てくる割合が少なかったため、もう少しクイズを追加して作る。
- ・すごろくのボードを自分たちで作る。



- ・ ルールの工夫（ローカルルールの採用）
5年生への防災指導の手順の確認・役割分担

防災マップハンドブック作成計画

2学期に作成した防災マップをもとに、地域の方に役立ててもらえるハンドブックとはどのようなものかを考えて計画を立てる。

- ・ 楽しく、わかりやすく、役に立つハンドブックを目指して計画を立てる。

「千葉県自主防災組織活動支援シンポジウム」参加 平成18年1月29日
各学級の代表児童28名にて、「千葉県自主防災組織活動支援シンポジウム」の分科会
「僕たち私たちが地域を守る」にて、2年間の防災学習の歩みについて発表。

- ・ 2年間で行った防災ゲームの（9種類）の紹介
- ・ 防災パンフレット作りについて
- ・ 防災新聞作りについて
- ・ 地域防災マップ作成について
- ・ 「ぼうさい駅伝」について

我孫子市での自分たちの取り組みを、千葉県へと発信し、役立ててもらおうと意欲的に取り組んだ。

< 2月・3月の活動予定 >

防災新聞第8号～第10号発行予定

5年生の各学級にて「ぼうさい駅伝・湖北小バージョン」を利用して、防災について伝える。

学習参観を利用して、保護者の皆さんにも「ぼうさい駅伝・湖北小バージョン」を体験してもらい、防災について学んでもらう。

防災マップハンドブックの作成・地域への配布

8. 学習の成果

子どもたちの成長・地域の防災意識の向上

2年間の防災学習を通して、子どもたちの「防災」に対する意識が大きく変化した。2年前には「防災」など全く意識していなかった子どもたちが、今では「防災」を単なる「ものの備え」だけではなく、「一人一人の意識の問題」としてとらえるまでに成長した。

また、児童は自分たちの作成した「防災新聞」を読んで、防災に関心を持ってくれるようになった人が多くいることを知り、地域へ呼びかけることの大切さを実感し、今後も自分たちの学んだ知識や情報を、地域へと発信していきたいというさらなる意欲が生まれた。

自分たちの活動が、はっきりと地域の役に立っているという実感を持つことができたことで、児童は地域の一員としての自覚をもって、情報発信をすることができた。

さらに、子どもたちの意欲的で、前向きな情報発信が地域の方々の防災意識を刺激し、高めていくことにもつながった。

地域の方達が、子どもたちからの防災情報を頼りにしてくれていることで、「地域と学校」、「子どもたちと大人」のつながりも深まっていくこととなり、災害時もっとも大切となる日ごろからの地域コミュニケーション力へとつながっていると感じている。地域における子どもたちの働きかけの効果は、このように大変大きいものであり、まさに子どもたちが「学校と地域の架け橋」となり活躍している。

また、校内においては子どもから子どもへの防災教育を行ったが、これも効果は

大であった。子どもの感想の中に「防災新聞や防災ゲームは、作る側も勉強になり、読む側や遊ぶ側も勉強になり大変有効だ！」との意見があった。まさに、その通りであり、さらに、作る側も、読む側も、遊ぶ側も楽しく学べることが何よりである。

<子どものワークシートより>

「防災にとって必要なことは？」

- ・ 自助・共助・公助で、お互いに助け合うこと
- ・ 協力。みんなで助け合うこと。
- ・ 防災にとって必要なことは、やる気と知識。
- ・ みんなが災害に立ち向かっていく『勇気』。
- ・ 強い心が必要！
- ・ 災害が来たときのための、事前の準備。
- ・ 災害がいつ起きても対応できるように、ものの準備や心の準備が必要。
- ・ 防災のことを後回しに考えないこと。
- ・ 命を守るために続けること。
- ・ 知識、やる気、伝える力。
- ・ 防災への意識
- ・ 大人の自然災害に対する恐怖。やはり、防災グッズを買うのは大人だし、大人はお金！お金！お金がかかるからだめー！ですませてしまう。だから、大人の自然災害に対する関心を高めることが大切！

「湖北をどんなまちにしていきたい？」

- ・ みんなで協力し合って、災害に強いまちにしていきたい！
- ・ みんながちゃんと防災に取り組むまち。
- ・ 災害に対応できるまち。
- ・ 大きな災害が起きても、みんなで協力し合えるようなまちにしていきたい。
- ・ 災害に強く、防災の知識をみんなが持っていて、いざというときにも助け合えるまち。
- ・ 近所づきあいのいいまち。
- ・ 自助・共助・公助のしっかりできるまち。
- ・ みんなが防災に取り組み、協力し、助け合うまちにしたい。

「防災学習の感想」

- ・ 最初は全然防災なんてわからなかったけど、勉強していくうちにだんだんわかってきたし、防災は大切なんだなと思った。
- ・ 最初は防災なんて「やだなー」と思っていたけど、あの方では防災でみんなに勇気をつけようと思って一生懸命やった。
- ・ 私は防災学習を2年間続けているいろいろな知識を持つことができました。今はその知識を地域の方々に教えてあげたいと思います。
- ・ 災害は改めて怖いと思う。
- ・ 防災学習を知らないまま地震が起きていたら死んでいた。今は前より生きられると思う。卒業してからも機会があれば防災学習を続けていきたい。
- ・ 我孫子市の人々の役に立てて良かったです。
- ・ 最初は新聞作りは大変だったけど、今では「もっとやりたいな」とか「授業の全部が防災新聞作りだったらいいのに」と思うようになった。
- ・ 今まで学習してきたことは、災害が起こったときに自分のためになるから、今までの学習はとても役に立つと思う。
- ・ 防災のことがいろいろと学べて楽しかった。これからもやっていきたい。
- ・ 防災新聞や防災ゲームは、作る側も勉強になり、読む側や遊ぶ側も勉強になり大変有効だ！

我孫子市全体への影響

2年前の本校での防災学習スタート時には、我孫子市内では学校現場での防災学習というものは避難訓練の前後に行う学級指導ぐらいのものであり、「総合的な学習の時間」を利用して長期的に取り組んでいる学校はゼロの状態であった。そのため、「前例がない」との理由から、防災関係諸機関との連携がなかなか難しい状態であった。

1年目の防災学習が終わった段階で、市の教育論文集にて実践報告を行ったが、反響はほとんど無いような状況であった。

しかしながら、2年目、「防災教育チャレンジプラン」の指定を受けて活動するようになり、徐々にではあるがまずは、校内で防災教育についての理解が得られるようになっていった。「防災教育チャレンジプラン」実行委員会の皆様のご支援のもと防災教育を続けて来たことで、子どもたちのやる気はぐんと高まり、それは地域へと広まり、その結果子どもたちはさらに頑張り……。地域の方々の口コミで子どもたちの頑張りが我孫子市内へと広がり、3学期には、子どもたちの作った防災新聞が「学びの扉」という、我孫子市内の学校間を結ぶLAN上で公開されることとなった。さらに、毎日新聞社やNHK神戸の取材を受けたことで、さらに防災学習に対する周りの関心がたかまり、市内の学校から防災学習に関する問い合わせが入り、他校でも来年度の取り組みを検討するようになった。

長期的な防災学習にほとんど取り組んでいなかった我孫子市が、子どもたちの地道な活動をきっかけに、防災学習の第一歩を踏み出したことは大きな成果である。

9. 今後の課題

子どもたちのワークシートの中にも書かれていたように、防災は続けることが大切である。せっかく芽生えた子どもたちの防災意識が卒業とともにとぎれてしまわないようにしたい。そのためには、子どもたちの学習を確実に引き継いでいくことが大切である。我孫子市内に防災学習が広まっていくことが子どもたちの自信や誇りとなり、卒業後も防災に関する取り組みを続けていくことになり、そして、大人になったときにはきっと「地域の防災リーダー」として活躍してくれることと思う。

今後の課題としては、我孫子市でやっと歩み出した防災学習をいかにつなげ、広めていくかである。

子どもたちとともに、2年間かけて行ってきた防災学習の流れをモデルパターンとして、また、子どもたちが作成した防災ゲームの有効活用も行って、我孫子市内の様々な学校で防災学習に取り組めるよう、支援をしていきたい。

そして、さらに、我孫子市を発信地として千葉県内に防災学習を広めていくことも目指していきたい。

一人でも多くの方が防災に取り組むことが、地域の防災力をあげていくことにつながる。

平成17年度我孫子市立湖北小学校卒業生とともに、今後も地域防災力向上に貢献していきたいと思う。